

藍の生産拡大や新商品開発につながる技術開発

背景と課題

- 1) 徳島県は、「すくも」の原料となるタデ藍の生産が盛んです。しかし、近年、作付面積の減少により、タデ藍供給量が不足しています。
- 2) 県内企業ではタデ藍を用いた商品開発が盛んですが、タデ藍の入手はやはり困難です。
- 3) 新商品開発に取り組む県内企業では、「すくも」とは別に「沈殿藍」と呼ばれる色素原料を使っています。沈殿藍は収穫直後の生葉を用いて作るため、製造が季節的に集中し、大量製造が困難です。また、高品質沈殿藍の効率的製造方法は確立されていません。

研究の目的

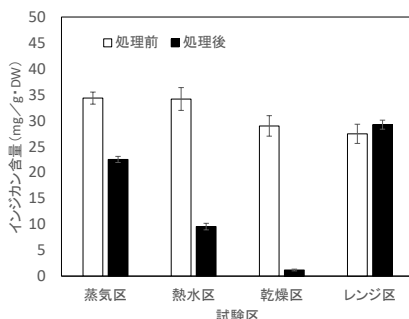
- 省力化技術や高品質葉藍の栽培方法の確立、新品種育成により、作付面積拡大に貢献します。
- 沈殿藍製造方法の効率化や、染色方法の開発などで、県内企業の商品開発に貢献します。

研究の内容および成果

- 除草剤の登録と収穫機開発により、農作業の省力化を実現しました。
- 沈殿藍の製造法を改良し、これまでより高品質な沈殿藍が製造可能になりました。
- 葉中の色素を多く生産できる環境条件を解明し、高品質タデ藍栽培技術を確立します。
- 収穫後貯蔵できる乾燥葉からの抽出方法を確立し、年間をとおして製造できる方法を開発します。また「沈殿藍」製造方法の効率化と高品質化を実現します。
- 立性で栽培しやすく、色素量の多い新品種を育成します。
- 藍に含まれる赤色色素「インジルビン」を応用した染色法を開発します。



開発したタデ藍簡易収穫機
(株)栄工製作所製造)



水で色素抽出が可能な乾燥葉製造試験
(蒸気処理によるインジカン保持量)



高品質沈殿藍製造方法開発
新方式による沈殿藍(左)
従来の沈殿藍(右)
※画用紙に塗布して比較



立性の新品種育成



インジルビンを応用した染色法の開発
※牛皮革を染色